

## 正の数・負の数についての Q&amp;A

## 正の符号「+」をつける場合、つけない場合

Q: 「正の数・負の数」では、小学校で学んでいた正の数に符号「+」をつけて表す場合がありますが、これをつける場合とつけない場合は、どのように使い分ければよいでしょうか。

A: 小学校で学んできた0以外の数が正の数とよばれることや、正の数は符号「+」をつけて表す場合があることは、ここではじめて学びます。小学校で学んだ数であることがわかるように、ここでもほんとうは正の数に符号をつけない方がよいかもしれません。しかし、たがいに反対の性質をもつ量や、基準を決めて増減や過不足を表すときには、正、負、のどちらの場合にも符号をつけた方が、その数の持つ性質がわかりやすいといえます。

また、正の数・負の数の加法の計算では、和をとる2数の符号と絶対値のきまりを使って計算を進める場面があります。このとき、2数の符号がそれぞれどうなのかがわかりやすく、符号と演算記号の区別もつきやすいように、2数ともに符号とカッコをつけるのが、はじめのうちはよいでしょう。

このように、「正の数・負の数」の中では、目的に応じてわかりやすいときには、正の数にも符号「+」をつけています。しかし、日常生活で正の数にわざわざ「+」をつけて表すことはありませんし、この先の学習でも、特別な場合を除いて、正の数に符号をつけることはなくなります。生徒が符号「+」をつけないと正の数をとらえられないようになっては困りますので、その点には注意しつつ指導したいところです。

$$7-8-5+9 \quad \dots\dots\textcircled{2}$$

は、

7, -8, -5, 9 の和

とみることができます。つまり、②のような式でも、正の項の和、負の項の和を、それぞれ求めて、次のように計算できます。

$$\begin{aligned} &7-8-5+9 \\ &= 7+9-8-5 \\ &= 16-13 \\ &= 3 \end{aligned}$$

正の項をいうときには、  
符号+を省いてもいいよ



$$\begin{aligned} &(+7)+(-8)+(-5)+(+9) \\ &=(+7)+(+9)+(-8)+(-5) \\ &=(+16)+(-13) \\ &=3 \end{aligned}$$



# 1 正の数・負の数

## 正の数・負の数についてのQ&A



Handwriting practice area consisting of multiple horizontal dashed lines on a light yellow background.

A large, empty rectangular box with a light blue border, intended for a question or answer.

Handwriting practice area consisting of multiple horizontal dashed lines on a light yellow background.

